



# 市民がいちばんの 観光案内人

市民による市内観光は……

やむをえない（9月議会）

やぶさかではない（12月議会）

## ■道案内から始めよう

雲仙岳災害を機に僕ら（森岳商店街＝森岳まちづくりの会）は「まちづくり」に目覚め、観光客も呼べる『まち』をめざしています。

「観光案内が出来るように頑張ろう！」と提案しましたが、初めはみな尻込みしました。でも「道案内ぐらいなら」と『観光道案内運動』としてスタートしたのでした。

こうして一旦看板を上げると、島原のことに関心が高まり、色んなことを知り始める。知れば知るほど島原の良さが分かり誇りに思えて来るから不思議です。市民がいちばんの観光案内人になっていくという訳です。

## ■再発見の周遊バスでは？

市の政策として、左ページ（島原お得情報）でも紹介した、観光客向けに無料バスが走るようになった。ところが、ほとんどガラガラの空車状態で走っているのが実態だった。

松坂は、9月議会において、利用をうながす意味も込めて、市民も大いに利用して、病院通いのお年寄りにも呼びかけてはどうかと提案しました。

当局の答えは、観光客のためのバスだから市民の利用は遠慮して欲しい。だから市民には積極的に告知していない、と言う。

（観光優先は分かるが）市民が遠来の友人などを案内したり、市民が島原観光をするのはかまわないでしょうね。と念を押した。

当局は迷惑そうに「市民の利用も観光に限ってやむをえない。」と答弁したのでした。「市民の皆様も積極的に利用して、島原の良さを満喫して、そのことを広く発信して欲しいと

思いますぐらいのことが言えないのか?!」と、詰め寄りましたが意味が分からなかったようです。彼らの考える観光宣伝は市外県外に発信することで、肝心の島原市民は何も知らなくてもかまわないという認識なのです。

## ■運転手のためのバス運行？

松坂は当局の認識を改めさせるべきだと考え、12月議会で「市民が一番の観光案内人」と題して、再度質問を繰り返しました。

（次ページ：決算討論でも述べますが）熊本と島原を結ぶシャトルライナーシーガルも同様、雇用対策事業ということで運転手たちに失業対策として給料を払うのが目的であって、観光などは二の次であることが明らかになったわけです。

市内周遊の無料シャトルバスは、観光客どころかお客さんを乗せようという考え方ではなく、運転手さんたちがバスを走らせればそれでいいと考えていたのでした。

このバスの利用対象者は車を使わないで島原に入り込む観光客を想定しています。ならば、まず確実に島原港と島原駅には乗車券を配置しなければなりません。ところが当初、島原駅には停留所は設置しながら、乗車券は置いていなかったのがあります。松坂の指摘を受けて島原駅にも置くようになりましたが、未だに案内はされていません。

松坂は再度確認しました。「市民が島原観光の良さを知るために、無料シャトルバスは市民も利用できますよね!」と。

当局の答え。「やぶさかではない。」啞然! 気が進まないけど否定はできないというわけだ。